

# 皆生海岸清掃美化ボランティア活動参加



さる、6月25日(日)毎年恒例の皆生海岸清掃美化ボランティア活動参加が行われた。

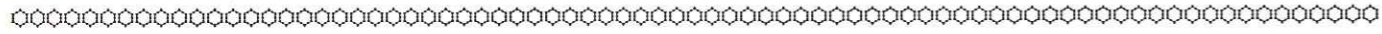
6月は全国環境月間で、様々な取り組みが全国的におこなわれており、米子市においても米子地区環境問題を考える企業懇話会が事業の一環として、みんなの手で住みよい街づくりの為、気持ちのよい汗をかく「日本の水浴場55選」になった皆生海岸をきれいにしようとの活動が展開された。

当日は曇天で蒸し暑い天候だったが、参加企業26社、団体4団体で約1000名の参加者を集めた。本年度で第5回目を数えることになり年々増えていく参加者を見るにつけ、環境意識の高まりを感じずにはいられなかった。

朝9時30分から、企業懇話会の吉澤会長及び森田米子市長のご挨拶の後皆生海岸一帯(堀川河口～日野川河口)を4分別(缶ビン類、不燃物、可燃物、発泡スチロール)のゴミを収集作業をおこない、10時30分に終了した。

当会からは堀田会長を始め萬田21地球委員長、他会員のご家族にもお世話になり合計で12名の参加があった。ゴミを拾い集める中、掃除機やタイヤ、ロープ等なぜこんなゴミが…と思う物まであり、常識以前の問題である事にあらためて地球規模で環境を考えなければならぬと決意した。本当に参加された皆様お疲れ様でした。

広報委員会 岩崎康朗



## 聞いてごしない Part 14


先日、ある会長経験者から話を二つ聞きました。ひとつは「私は、西部青年中央会の他に、ある青年経済団体の理事長も以前にさせて頂きました。よく二つの団体のどこが違うのかと聞かれますが、それぞれ成り立ちも目的も違いますので比べることは難しいと思います。またどちらが楽しいか、役に立つのか質問されますが、これも答えるのは難しい。本当のところどちらにも愛着があるし、その時々夢中になっていたほうにはまっていたのかな。」ふたつめは、「謀青年経済団体の理事長は、私が36歳の時させて頂きました。そのころは、目的を達成するためには、回りの理解を得られなくても、かまわず先頭で進んでいたようなこともあったかと思えます。自分の思いが先行し、今思えば、当時のスタッフには申し訳ないこともあったかもしれません。西部青年中央会の会長は、それから7年後にさせて頂きました。最初は自分で会を引っ張って行くんだという思いが強かったんだけど、予定者会議から3ヶ月ぐらい経ってから、「会の四半世紀を集大成し、21世紀に継ぐ(つなぐ)」という目的がみんなではっきりしているなら、スタッフのそれぞれの感性と能力を十分に発揮してもらい、リーダーは目的達成の為に戦略を立てたり、調整をしたりすることに専念したほうが良いと気が付きました。私は、時にはいちずなエネルギーも必要ですし、なりふりかまわず思ったことをストレートに行動したいとも思っていますし、どちらのやり方がいいのか分かりませんが、年齢とか出会ったかによって決まるんじゃないかと思えます。

やっぱり、30代と40代では自分で意識しないでも、やり方が変わったんでしょうか。  
どちらにしても、この一年間、私はとっても楽しかったし、スタッフのみんながおんなじように楽しかったら、うれしいなと思います。」

今月は謀直前会長の独白を紹介して、聞いてごしないを替えさせていただきます。

(あぶらうり)

### コピーをして名簿にお貼り下さい

	まつしたのみお	〇型代表
	松下文雄	
	エム・プランニング	
	建築施工 現場管理	
	〒684-0001 境港市清水町766-8	
	TEL 44-8463 FAX 44-8463	
	(KT) (EM)	
	H12.07入会 (推薦者) 遠藤(健) 上野(正)	
	〈自宅〉境港市清水町766-8	
	〒684-0001 S.37.6.13 TEL 44-8463	

【コメント】  
この度、西部青年中央会に入会させていただきました松下文雄と申します。会の事はまだ、右も左も解らない事だらけですので、諸先輩方には色々御迷惑を御掛けする事と思っておりますが、御指導、御鞭撻の程よろしくお願い致します。  
自分自身も一回りも二回りも大きくなれるように精一杯頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

### 8月例会案内

とき 平成12年8月18日(金) 18:30~  
ところ ホテルサンルート米子  
講師 (株)山陰放送 代表取締役 松田好哉  
演題 「放送・通信融合の21世紀」  
担当 情報メディア委員会

### 8月役員会報告

8月定例役員会が平成12年8月1日(火)、米子食品会館に於て開催された。当日の主な議題は、次の通りです。  
(1) 8、9月例会開催の件  
(2) チビッコトライアスロンの件  
(3) 中小企業全国大会参加の件  
(4) その他  
※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

### 編集後記

新広報委員会のスタート、暑さも忘れるくらい忙しい、あつという間の1ヶ月であった。これから1年、我が広報委員会は、忙しさを活発な委員会活動ととらえ、メンバー一丸となって、内容のある広報紙をめざします。どうぞよろしくお願いいたします。

# 志と実学

「英知を養う」  
「フィロソフィア」

第26号 2000.8.

# 雄飛

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 土井一朗 編集責任者 浜 義徳 印刷所 東京印刷所

## ご挨拶

鳥取県西部中小企業青年中央会  
会長 土井一朗



第26期会長を務めさせていただきました。どうぞ一年間よろしくお願いいたします。本年は新しい千年を迎える感激に満ちた年となりました。世界中が新しい千年を迎える喜びに満ちています。

振り返れば20世紀は、人間が成し遂げた科学の発達と経済的な富により、喜びと便利さがもたらされた時代でした。反面、二度の世界大戦をはじめ大小の戦争と紛争、公害や環境汚染、様々な病気や飢餓等々、人類が解決すべき多くの難解な宿題を残した時代であることも事実です。21世紀を人類の喜びと希望の千年とする為には、人類すべてが共に力を合わせこれらの難問に立ち向かわなくてはなりません。利害を乗り越え、知識を越えた優れた知恵の結集こそが解決のキーワードと考えます。まさに「21世紀は英知の時代」と言えるのではないのでしょうか。

そして足元に目を向ければ、我々中小企業も複雑で多様化する消費者のニーズに前向きに対処し、少子高齢化等の地域の現状を考えながら、社員を守る経営を行うという重い課題を背負い新しい千年の一步を踏み出しています。

かつてギリシャの哲人ソクラテスは、真の知を神に帰し「魂の配慮」として知(徳)の追求即ちフィロソフィアを説いて人間が求めるべき対象であると説きました。青年中央会の理念とも言うべき「英知を養う」事を今こそ我々が身につけ、自分自身のために、家族のために、地域社会そして日本国のために、ひいては人類のために発揮しなくてはなりません。しかしながら現実を目を向けると、現代は「日本人として企業人としての理想や価値観が曖昧な時代」です。

今こそ我々青年が世界に通用するアイデンティティー(自己の存在意義)をしっかりと持ち、リーダーシップを発揮しなくてはならないと考えます。

親愛なる会員の皆様、OBの皆様、新しい世紀は小さくとも自分の分野を守る誠実で、英知を持つ経営者の時代です。新しい時代にビジョンを持って、志を定め、世のなかに役立つ経営を目指し、実学を身につけ、社員を守る内容のある企業に発展させ、共に感動に満ちた世紀にしようではありませんか。

鳥取県中小企業青年中央会  
会長 奥森隆夫



このたび、鳥取県中小企業青年中央会の県会長に就任致しました奥森でございます。皆様には何かとお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本年度の県スローガンを「思い(自己の可能性)」とさせていただきます。昨年度水谷直前会長のスローガン「見直そうよ(故郷、人、心)」を引き継ぎ更にもう一步踏み込んでみたいと思います。

20世紀から21世紀に向かって中小企業零細企業を取り巻く経済環境は目まぐるしく変化しています。

中小企業の技術は世界の中でも最高レベルであることは自分自身が身をもって経験していますし、世界も認めています。

しかし中小企業等の現状は特別保証制度などで倒産は逃れた会社も大企業の切り捨てや海外調達にともなうコストダウンによる収益悪化などにより、ほとんど無給に近い状態や赤字受注を覚悟で仕事している中小企業があります。こうした中小企業が危機に陥っているのは言うまでもありません。大企業あつての中小企業ではなく逆ではないのでしょうか?

例えばここにメスを入れ、地方自治体が中小企業と手を組み、銀行だけでなく、地方自治体の協力の下、投資家から直接資金を取り込める金融市場を作ること考えてもいいと思います。また中小企業の経営者も大企業にたよる体質ではなく、もっと自社企業を売り込むべきです。既設概念を捨てて、頭を柔らかくし、ひらめきを実行に移してみる身軽さがあっても良いと思います。ある本の中でマザーテレサがある企業人から1台の新車の寄付を受け、この車をお金に換えようとしたそうです。もし、あなたならどうしますか?車を誰に買ってもらうかマザーテレサはインドにおいて「新車が当たる」というくじを売り出したそうです。単に車を処分してお金を作るのではなく、庶民に夢を売って多額のお金を集め、それを慈善活動に使ったそうです。発想の転換などという堅いことではなく、「思い」によって成功した事例です。この事は我々にも出来ることではないのでしょうか?

鳥取県に生まれ、育ち、その地域で大小あれども企業のトップやサブとして活躍されている皆様は「思い」があるはず。今、我々は夢を持って仕事しているか?人に夢を与えているか?この不景気な時だからこそ、自分への可能性に賭けるチャンスとして考えるべき時ではないかと思えます。

この事を踏まえ、この一年間皆様と一緒に勉強していきたいと思っておりますのでどうかよろしくお願いいたします。



# 新年度副会長・委員長抱負



## 副会長 門脇浩二

第26期西部青年中央会副会長を務めます門脇です、よろしくお願い致します。土井会長の今年度のテーマ「志と実学」そして新しい委員会、志委員会、実学委員会担当です。役の重要さを感じ、身の引き締まる思いですが、微力ながら精一杯努力する覚悟です。この厳しい時代に私は、武海、釜田両委員長と力を合せ、一年間しっかり勉強させてもらいます。最後に私の思いを…  
「漁師の今夜、百姓の一年」  
漁師というのは、今夜漁に出て見なければえものがあるかどうかかわらない（百姓は一年かけて成果が出る（じっくり時間がかけられる））今という時間を大切にしなければならぬ。

## 志委員長 釜田公文

この一年間「志委員会」に取り組むことになりました釜田です。  
志を定めるとき、正義に沿ったもので無ければその志は単なる願望でしかなく個人のエゴになってしまい道を誤ってしまう。戦乱の世を見たとき大衆をひとつの方向に（指導者の志）向けようとしたとき、正しい意義（志）の為ならば、個人の損得や、多少の犠牲も省みることなく、ひとつの方向に向かい突き進むとき、困難なことも可能になっていく。であるから、志を定めるとき十分な思慮が必要になる。我々中小企業経営者として、あるいは幹部として正しい志を持ち、会社＝従業員をひとつの方向に向け、他社に負けない強い経営を持って従業員の幸せを、守っていきけるよう努力する義務があるのではないのでしょうか。歴史に習い、今の世のゆがみを直視し、我々の国が正しい方向に向かう為、今一度考え、志を建てなおすときが来たように思う。

## 実学委員長 武海 章

本年度1年間、土井会長のもと実学委員会の委員長を務めさせて頂く事になりました。武海章です。  
実学とは、実際に役に立つ（当会においては次代の中小企業を担うにふさわしい経済人になるための）学問の事です。ひとつの具体的な事項には、会長のお言葉をお借りすると、「売上げが伸びない時代に稼げる、実践に強い経営が行なえる勉強」ということになるとおもいます。  
私自身としてはテーマに「企業人としての資質の向上・危機管理能力・会計知識・付加価値経営を、実践を通して学び取る」と掲げさせて頂き、研鑽していこうと考えております。私なりに、一から勉強し会員の皆様と共に考え、毎月少しずつでも当委員会の成果が出せるよう努力して参る所存です。よろしくお願いいたします。

## 副会長 濱 義徳

この度、土井会長のもとで西部青年中央会副会長を務める事になりました濱 義徳です。担当委員会は田中委員長の情報メディア委員会と足立委員長の広報委員会です。情報メディア委員会は「IT」に取り組む計画であり、実のある委員会になることと思っています。又、広報委員会は西部青年中央会の実のある活動を会員のみならずOB諸氏、関係者の方々に情報発信する充実した誌面の「ハンサム」作りを方針としております。なにぶんにも、経験の浅い副会長ではありますが、田中委員長と足立委員長そして会員各位のサポートをする事で西部青年中央会の活動を盛り上げていく所存ですので、ご指導ご鞭撻そしてご協力をいただきますように誌面を借りてお願い申し上げます。

## 広報委員長 足立 徹

今年度、委員長を務めさせて頂きます足立 徹です。広報委員会は、雄飛・ハンサム発行を主に活動してまいります。21世紀につながる今年度は、中央会の情報機関としての広報活動も重要な役割があると、感じております。  
紙面づくりにおきましては、新鮮でわかりやすさを基本におき、今年度のテーマであります「志と実学」を全面に表現できるよう、各委員会と密に連携をとり、それぞれの委員会の取り組みを詳細に取り上げながら摸索してまいりたいと思っております。また、急速に進みつつある情報通信技術にも着目し、これに関連する情報なども、取り上げていきたいと思っております。一年間、右往左往しながら広報委員会の方々の協力をいただき、全員参加で楽しめる委員会をめざしがんばっていきたく思います。皆様にも、いろいろお願いすることがあると思いますが、どうぞ一年間よろしくお願い致します。

## 情報メディア委員長 田中康裕

現在の経済は革命期です。革命というのは改良ではなく白を黒に変化させるものすごい変化です。一方現代社会は情報が経済の基本となっており、「IT革命」はまさにこの経済の根幹に革命が起こっていることです。ボヤボヤしていると本当に時代に乗り遅れ、淘汰されてしまうおそれがあります。しかし、一方で情報の氾濫というマイナス面もあり、IT革命を的確に捉えないと、労力の無駄ばかりかIT革命により誤った方向へ導かれてしまう恐れもあります。  
従いまして、我々情報メディア委員会では、今まさにタイムリーな「ITビジネス」についての徹底研究を行い、会員企業にとりまして役に立つものと、捨てた方がよいものを識別する目を養い、「IT」が実際の経営の場で活かせる活動内容を目指します。  
また中央会のホームページの管理運営も当委員会で行います。どうぞ1年間よろしくお願い致します。



## 竜ヶ山A.Sより報告

## 濱 義徳



この仕事は、副会長は、A.S責任者を務めないけんと言習慣で引き受けた任務でした。まず考えたのはボランティアを一人でも多く集めなければと思ひ、境港の会員にボランティア依頼のFAXを送り、電話をしてお願いをしたのを皮切りに、景川OBと境港三中に、行きボランティア協力の要請をすると了解がえられたので安堵しました。と言うのも今回は境港三中A.Sから位置が変更された為に断られるのではないかと危惧していたのです。また、ソプロチミスト境港にも協力をお願いした処、快諾を得られたので体制の構想が浮かんできた。その後、ボランティア協力の返事が続々と来るようになり、会員と家族及び知人の参加が80名を越え、境港三中の29名、ソプロチミストの21名、更に自衛隊美保基地から20名、西部青年中央会OBが4名と当初の予想を遙かに上回る、総勢170名のボランティア参加をえて、AS運営の成功を確信するとともに責任の重大さを感じた。いよいよ当日、7月23日エイドステーションの設営に行くとき夏の日差しが強く暑い一日になることを覚悟した。次々に来る会員に準備をしてもらい、会員以外のボランティアが集まると事前に決めた各ポイントのリーダーが部所のボランティアの取りまとめ等を行いだした。あちこちから質問が私のところへとんでくるので右往左往する。この時点で汗だくなる。すべての準備が整い、選手を待つばかりとなった。トップの選手が入ってきたとき自衛隊のボランティアが準備した太鼓が打ち鳴らされて、私たちのトライアスロンが始まった。それから、年配の方から小学生までまさに老若男女が汗だくで働きました。みんなが選手に声援をかけました。全員が一丸となって選手をサポートしようとする姿には、頭がさがる思いでした。午後7時が過ぎ、解散式の時に土井会長から竜ヶ山A.SはA.S中のナンバーワンだと本部で選手の談話があったと聞き、成功を感じるのと共に、ボランティアの皆様へ深く感謝しました。最後になりましたが、当日意を尽くせませんでしたので誌面を借りて参加していただいた方々に厚くお礼申し上げます。



## 安部 利夫



第20回の記念大会として行なわれた皆生トライアスロンは好天に恵まれ開催された。A.S例年のように9時過ぎより準備に入り堀田直前、土井会長、奥森県会長に挨拶をいただきスタートした。  
萬田副責任者により12ヶ所のポイントにつくメンバー整理を、武海副責任者には設営、ポイントの状況把握を的確に行なっていただきスムーズに流れていった。ボランティアの参加者も、選手が通過する数に合わせていくように増えていき、それぞれに役割をこなしてもらった。  
子供たちは選手に頭から水をかけ、スポンジを渡す。女性の方は選手に飲み物をと皆テキパキと動く。中でも土井会長の奥様、萬田会員の奥様には終日休みなくお世話頂き本当に有難かった。  
現役会員55名、家族23名、一般の方50名、OB会員（田中正夫OB、日熊OB、藤森OB、谷口OB）4名、東部中央会7名、中部中央会7名、総勢142名のボランティアの皆様、ご苦労様でした。  
又昨年同様お世話になった酸友会の皆様には4ヶ所のポイントを受け持ってもらい本当にありがとうございました。  
最後に反省点や課題はたくさんあると思いますが、年に1回の中央会のボランティア活動、ぜひみんなで議論し次年度へと「維」いではいと思います。





「6年振りの出場を振り返って」

柴野 清OB



7月23日の皆生トライアスロン大会、スタッフ・ボランティアとして1日中ごころう様でした。そして我々選手のおかげで完走させていただきました。会員の皆様のおかげで完走させていただくことが出来たこと本当に感謝している次第です。

私には、6年ぶりの出場でした。5年間スタッフとして参加し、もう2度と選手としての参加は体力的に無理とあきらめておりましたが、20回の記念大会であり会員からのすすめもあり青年中央会の卒会の記念にと、もう一度、選手での出場を決めました。

昨年暮よりそれなりにトレーニングをしましたが、自転車コースの苛酷さ、なんといってもあの酷暑境に向かって走りながら、昔もこんなに苦しかったかなと思いつつ、一方でこんなすばらしい遊び(スポーツ)を又、出来るなんて、なんて幸せ者だろうと感謝し、沿道で応援していただく方々、青年中央会の河端エイドステーション、境エイドステーションでの「柴野ガンバレ」の声援で勇気づけられ夢でありましたゴールテープを5才の長男と手をつないで切れました。ごく普通の人が、少しずつトレーニングをつまば必ず完走できます。



第20回全日本トライアスロン皆生大会を終えて

和田 健二OB



今年で15回目と自分自身にとっても記念すべき大会でした。スタート前、恒例の中央会の皆様方からの温かいエールをいただき、スイムをスタートしました。スイムは予想以上に早いタイムで上がった事ができました。

バイクは、途中の上り坂で何度となくバイクから降りようと思う程苦しい7時間でした。やっとの事でバイク制限時間30分前にフィニッシュ。そしてランに移った訳ですが、その段階ですでに完全燃焼しており体力は当然の事、気力さえも殆ど残っていない状態でした。

今年からコースが変わった日吉津村の5kmでは殆ど走っては歩きの状態で、100mを1分間もかかるような遅いペースでした。途中色々な方々からご声援をいただくのですが、全く足が動かずやっとの事で河端エードに着いた時はもう一歩も前に進めるような状態ではありませんでした。中央会の皆様から「頑張れ!」という励ましの後押しされ、トボトボと走りながらトライアスロンを始めて過去60回近い連続完走が今回はダメかもしれないと弱気な自分が少し顔を見せていたのは事実です。

境の折り返しの閉門午後7時にやっとの事で3分前にたどり着き、またまた中央会の皆様の温かいエールとサポートによってゴールを目指しました。時間があまりに無くもう歩いたらとても閉門の午後9時30分までにゴールする事ができない事は良くわかっていました。途中何度も止まりたいと思いつつ、自分自身と戦っていたような気がしました。去年より半分の練習量が、倍返してこの1日に集中して寝てきているのがよくわかりました。

折り返しの河端では最高のエールに迎えられ、ここで初めてひよっとしたら閉門に間に合うかもしれないと思えました。後は何も考えず唯ひよっからゴールに向かって行きました。

閉門午後9時30分に9分前、何度も、何度も、何度も諦めかけたゴールが見えてきた時は15年前初めて皆生でゴールした時と似た感動が自分自身にありました。



この感動を与えていただいた中央会の皆様には、言葉では言い尽くせない感謝の気持ちでいっぱいです。ほんとうにありがとうございました。

皆生大会に出場する事は(トライアスロンの魅力)

松岡 正高OB



今年も壮行会していただき、ありがとうございます。今度で6年連続出場になりました。「生きて帰って来いよ」の言葉に励まされてなんとか完走を果たしてきました。今回はいろいろな出来事があり出場を辞退しようと思いましたが、これも試練だと思し込みました。完走出来たのは、みなさんの温かい応援のおかげだと思います心からお礼申し上げます。

フィニッシュロードの赤いジュータンを走りながら、大会に「間に合ったな」と思いました。6年連続の完走です。なんで出場を決めたのかな、私生活の変化、体力の衰えの反発、ケガのリハビリ、スタッフしていたので一度はやってみたくて、それが当たっているようで又違うようで、6年前の事が頭の中を横切っていました。

トライアスロンはスイム(水泳)・バイク(自転車)・ラン(ランニング)の3種目で構成され、同一競技者により連続して競技されるスポーツです。ひとつひとつは有酸素運動であって年齢・体力に関係なく自分のペースで出来るスポーツです。長く続けてやるには、1種目より3種目行なった方が日先が変わっていいと思います。トライアスロンをやるようになってから、生活にリズムが出来、持久力がつき、健康を維持していると思います。皆生トライアスロン大会に出場する事は1年間、運動を続けて来たかと思う発表の場でもあるのです。又年に一度だけでも一日中他の事を考えないでスポーツするのも精神衛生上良いと思っています。



私にとってのトライアスロン

野嶋 功



最高気温36度を超す猛暑の中、力強い支援をいただき有り難うございました。皆さんのおかげで20世紀最後のレースを無事完走することができました。全くと言っていいほど、何もできずに大会に臨んでしまった今大会だったので完走だけを目標にして、焦らずのんびりといこうと心に決めてスタートを切ったのですが、焦ることはありませんでしたが、のんびりなんて無理でした。めいばいの状態でしたので、レースを楽しむなんてできません、周囲から見ている人も相当悲惨な状態で歩いていっていると思います。復路では頭がクラクラしてまっすぐ歩けなかった。あそこまでは、情けなさを通り過ぎて何の感傷もなくなることを初めて知りました。ただ、ゴールまで何とか辿り着こう、その気持ちだけでいいです。ゴール後点滴を受け、翌日からは元気に普段と変わらず生活をいたしております。河端ASや電ヶ山ASそして各ポイントで日に焼けた皆さんの声援がどんなにか背中を押してくれたか、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有り難うございました。

トライアスロンに関わって以来15年、第6・7回大会とボランティアとしてこの大会に参加して得た感動は翌年8回大会の初挑戦のエネルギーに変わっていました。「なぜそんなに苦しいことをやるの?」ほとんどの人がそう尋ねます。自分でもよくわからない。正直レース中はほんとにしんどい。私がそうであったように、前向きに走る選手の姿を目の当たりにすると感動します。然し実際選手として参加していると、それまで抱いていた感動の世界は遠くのものになってしまいます。必死になると感傷に浸ることができなくなる、心の余裕がなくなるのです。感動できるということは、心の余裕がないとできない物なのです。レースが終わる度に心穏やかにいることがどんなに大事なことになるのか再認識しております。

ただ、泳いで、漕いで、走る。この単純で簡単な行為から私はほんとに多くのことを教えてもらいました。ボランティア精神のすばらしさ、その協力に感謝すること、数え上げたらキリがありません。40歳を過ぎてからは、自分自身のことよりこのトライアスロン競技で得たことをより多くの人たちに伝えていくことが自分の使命ではないかと思っております。まだまだ、未熟で皆さんの協力がなければ完走もおぼつかないのですが、今後ともよろしくお願ひいたします。

また最後になりましたが、先日の懇親会において、オリンピック出場の小原君の為に多くのご協力でご寄付をいただき有り難うございました。皆さんから頂戴した志は、彼の応援活動に大事に使わせていただきます。9月17日午前10時(日本時間9時)に男子トライアスロン競技発祥の地・米子が産んだアジアの旗人小原選手に皆さんの力強い声援を贈ってやって下さい。ありがとうございました。



小原選手に皆さんの力強い声援を贈ってやって下さい。ありがとうございました。



newカマーズ委員長 中島太郎

本年度newカマーズ委員会委員長を拝命致しました中島太郎と申します。この聞きなれない名前の委員会は読んで字の如く「新しく来た人々」の研修と会員拡大を目的とし設置されました。非常に解りやすいテーマを頂いた反面、委員会のメンバーを見てビックリ!

新入会員以外は本年度監事2名を含む重鎮ばかり。この相反する立場の方々の間でどの様に委員会を運営していくか日々悩める毎日です。きっと“新しい所帯にやってきた右も左もわからぬ嫁を家風に合うよう小姑に教育してもらい、おまえはその仲立ちをし、小姑達に精一杯よいしょして会員拡大にすぐれた知恵(英知)を出してもらえ!”との会長の思召しと理解しているのですが…。ともかくにも各種行事に参加しなければならぬ新入会員の方々への労をねぎらい、鳥取県西部青年中央会を少しでも好きになっていただき、けっしてnewカスタマーズ委員会にならないよう邁進しますので宜しくお願い致します。

副会長 北野 実

この度土井会長より副会長を拝命致しました北野です。平成6年に入会させて頂き、約6年間の比較的浅い経験ですが、人一倍努力して皆さんに迷惑をかけない様に致したく思っております。本年度会長のテーマ「志と実学」を基本理念として、その理念を担当させて頂く総務委員会(夏山委員長)とnewカマーズ委員会(中島委員長)に浸透させて行くのが私の使命だと思います。私自身、一番欠けている経営学を学びながら、会長と委員会のパイプ役として精一杯頑張る所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

総務委員長 夏山裕一

この度総務委員長をおおせつかりました夏山です。忙しい一年になりますが、これも勉強と思い、失敗を恐れず学んで行きたいと思っております。歴代の委員長とはまた違うカラーを出しつつも我々中央会の伝統を守り、各行事に迅速に対応できるよう縁の下の力持ちとして一致団結して動ける委員会に出来ればと考えております。21世紀へと向かう今年度を土井会長のもとで精一杯がんばって見ようと思っておりますのでよろしくお願ひ致します。

副会長 景 幹雄

平成12年度、副会長を務めさせて頂く事になりました景です。今年のテーマ志と実学のもと、担当させて頂いた委員会、政治・地域ビジョン委員会(小椋博之委員長)と、21地球委員会(近岡一幸委員長)の2委員会を担当させて頂きます。政治・地域ビジョン委員会は、広域合併等、中央会が長年取り組んできた活動の検証、また21地球委員会は、教育と環境について1年間取り組んでいきます。体力、実力は十二分にある両委員長ですので、全力が出し切れるようお手伝いをさせていただきます。平成3年度に入会させて頂き、中央会最後のこの1年、力不足は他の副会長の力を借り、土井会長の下精一杯頑張りたいと思っておりますので、1年間よろしくお願ひ致します。

政治・地域ビジョン委員長 小椋博之

21世紀を迎える貴重なこの年に突如、政治・地域ビジョン委員長としてデビュー致します小椋です。本年度は、「志と実学」と言う運営方針の基で当委員会は、長年の青年中央会の研究・活動の検証をしつつ、「未来における地域の在るべき姿とは」を色々な観点から追求し提言してまいります。そこで、未来を切り拓くと言う意味合からも、1. 当会の委員が、地域の経済人として将来何を創造し実行して行きたいか、又、現在実行しつつあることがどんな課題点並びに実践結果が出つつあるのかを差し支えない程度で討議したい。

2. 現在の該当地域の現状を踏まえた上で今後最良なる地域にするためにはどうすべきかを十分に検討していきたい。以上、難しそうな課題点を挙げましたが、当委員会のメンバーにおかれましては、とても頼りない委員長だと思いますので、皆さんが中心になっていただき積極的にご参加くださいますようお願い致します。

21地球委員長 近岡一幸

今年度「21地球委員会」を担当します委員長の近岡です。よろしくお願ひ申し上げます。「教育」と「環境」の問題は、身近な問題でもありまた、21世紀に向けての重要な課題とされています。現状を踏まえ我々の出来ること、あるいは我々が今後大いに考えなければならぬことを委員各位の皆さんと討論しながら委員会としての方向付けをしたいと思っております。いずれにしても、多くの方のご協力ご支援と会長ほか役員の方のご指導をいただきながら務めさせていただきます。以上で文章が終れば優等生になりますので、本音を少し言わせてもらいますと、やはり例会・委員会は会員が楽しいと思っておられるのが一番良いと思っております。その中に凛然とした部分が少々あれば、それで十分だろう。「和顔で集い、実のある会を」どうぞ、よろしく!!!





# 鳥取県西部中小企業青年中央会平成12年度西部青年中央会第26回通常総会開催



平成12年7月17日(月)ホテルサンルート米子において、第26回通常総会が開催された。一年間の大役を終えた堀田会長の挨拶は、25周年を節目として今後の中央会の在り方を模索する一年だと決意して臨んだ年であり、今までの良い点を吸収して今後の四半世紀に継ぐことが大切であると締めくくられた。

安部副会長の議事進行で、①平成11年度事業報告、並びに収支決算書承認の件②平成12年度事業計画、並びに収支予算書(案)承認の件の二議案について審議され、原案通り可決決定された。続いて、平成10年度会長で25周年記念事業を成功裡に導かれた宮廻裕和直前会長に堀田会長より感謝状が贈られ、今年度で卒会される9名の会員に卒業証書の授与が行われ、卒会生を代表して田川会員が中央会活動を振り返り「中央会会員の能力の高さを感じている。更なる能力の発揮を期待する。」と挨拶された。続いて皆勤賞12名、精勤賞32名の表彰並びに最優秀委員会、優秀委員会の表彰がなされ、各々2020グランドデザイン委員会、総務委員会が栄えある賞を受賞し、前田、岡本委員長が望外の喜びと挨拶をされた。そして新入会員へのバッジ授与が行われ通常総会を無事終了した。総会終了後、来賓、OBを招いての懇親会が盛大に開かれ、土井新会長より「今年度のテーマを“志と実学”とし、会員相互が英知を養い、リーダーとして自信を持って21世紀の扉を開けるよう一年間研鑽していきたい。」という力強い挨拶があり、第4代岡田OB会会長より来賓祝辞の後、商工中金米子支店高岡支店長による乾杯で歓談に移りました。続いて皆生トライアスロン出場選手の壮行会では、松岡OB、和田OB、柴野OB野島会員の4名に中島太郎応援団長の熱い(?) 激励が送られ、参会者全員で活躍と生還を期し、エールを送り、壮行会の余韻の残る中、団体中央会西村事務局長のご発声による一本締めで懇親会は幕を閉じました。



## 平成12年度鳥取県中小企業青年中央会総会開催

平成12年7月26日(水)倉吉市の「倉吉シティホテル」に於いて、第26回総会が開催された。

西部地区からは、土井会長・堀田直前会長を始め、50名の参加となりました。まず始めに、水谷県会長の挨拶に始まり、第一号議案等々の議案審議が行われ無事会員皆様の承認により、全ての議案が成立した。

次に、平成12年度新役員紹介に於いて、西部から3年振りの県会長を迎え、奥森隆夫県会長の誕生となった。又、役員15名中6名が西部から誕生した。奥森新県会長を始め、新役員の方々には思う存分活躍して頂きたい。

通常総会閉会後記念講演が行われた。「元気 生き生き 故郷 人心」をテーマに鳥取県陸上競技協会理事長横山隆義先生の講演を聞いた。

第一声がなごやかな声で、「陸上は遊びです」から始まり様々な話を聞き、大変考えさせられる所があった。講演時間が予定より30分も短く、「もう少し話を聞いてみたい。」と思う様な講師先生だった。

講師先生を満場の拍手でお送りした後、



懇親会が行われ、この席上で「県会長の鍵」が水谷県会長より奥森新県会長へ引渡され、様々なアトラクションと和やかな雰囲気の中に県総会を無事終了した。



## 20th 全日本トライアスロン皆生大会

【緊張の夏トライアスロンの夏】



ボランティア部長 南 順三  
第20回全日本トライアスロン皆生大会ボランティア部の任務を無事終了し、まずは私を支えていただいたボランティア部スタッフの皆さん、ならびに西部青年中央会会員、OB諸兄に感謝いたします。

今大会はコース変更に伴うASの増設、みなと祭と同日開催とあってボランティアの不足が予想されておりました。ボランティア部の活動開始時点では、マラソンコース運営計画が決まっておらず、ボランティアの必要人数すら把握できない状況下でのスタートでした。

境港竜ヶ山公園A S担当の浜副会長には早期から取組んでいただき、5月末には「境の折り返しは任せろ！」との心強いお言葉。6月には同じASを担当する団体へ「共に大会を盛り上げましょう。」と挨拶回りをされるなど万全態勢を整えていただきました。新設されたAS2ヶ所には、景川OB代表の鳥取コーさんと松本啓OB代表のケイズさんを中心に配置し、AS指導を石谷勝OBに持つていただきました。そして完走者を迎えるゴール責任者には柴谷OBにお願いし、ひと安心。

しかし、7月に入っても参加者名簿すら登録されていないボランティア部泣かせの団体がありました。河端AS担当の西部青年中央会なのです。マラソンコースでウェイトの大きい重要なASであること、共に担当される酸友会さんへの負担増になる旨を伝えると、萬田副責任者は電話魔と化し、もの5日で131名の登録を済まされました。実際この時期、1番神経をすり減らしていました。これに長谷川一成員が選手として出場となっていたら、神経は衰弱しきっていかも知れません。そして当日は欠席者無しとのこと。見事なAS運営です。このように重要な個所を青年中央会関係者で占め、まさに皆生大会は青年中央会によって支えられていることを改めて認識した大会でありました。

今大会は20回記念大会ということで選手も過去最高の750名の参加になり、658名の選手がゴールいたしました。今からさかのぼること20年前、53名の選手と300名足らずのボランティアで始まった皆生大会も、今では3000名を超すボランティアの方々を支えられています。この20回記念大会を祝福するかのよう、地元皆生から生まれ育った小原工選手がシドニー五輪に出場となり、ひとつの夢を実現してくれました。スタッフとして大変喜ばしいことです。

日本発祥の地である皆生大会。トライアスリート達の財産ともいえる皆生大会。われわれは第2の小原工選手を輩出すべく、この皆生大会を21世紀へと継続させる義務と責任があります。そのためには、青年中央会関係者をはじめとしたボランティアの皆さんの絶大な協力が必要不可欠です。

21世紀、第21回全日本トライアスロン皆生大会へのさらなる協力をお願いいたします。ボランティア部長の任務を終えたいと思います。ありがとうございました。

マラソン部長 後藤 秀之

まづもって、マラソンコースにおいて川端ASそして竜ヶ山ASを応援して下さいました中央会各位の方々ありがとうございました。そしておつかれさまでした。本大会も無事終えることが出来本当にありがとうございました。

今年は、近年にない暑い、暑い、本当に暑い大会となりポイントに立たされた方は大変つらかつたろうと思います。マラソン部員においても大会前日の38度を超す猛暑の中準備を予定通りよくもくもくこなしていく部員には、大変苦労をかけた。おつかれさまでした。

又、備品洗い(7月5日)に会長をはじめ多くの会員の方にお手伝いをしていただきありがとうございました。皆様方の志によって本大会も無事大きな事故もなくスムーズに流れ本当に、本当に良い大会が出来、終了した事をかんげきに思います。ここに部長という名の元、2年目を終え自身の良い面悪い面が見えてきました。来年は悪い面を直し、良い面を伸ばしていきたいと思っておりますので、来年もマラソン部員の皆さま方バックアップのほどよろしく御願い致します。



## トライアスロンボランティアを体験して

NEWカマーズ委員会 植田 寿雄

今回ボランティアに初参加し、さまざまな困難に立ち向かい、「日本初」の試みに挑戦した方々に対する尊敬の念と、大会を20回にわたって支え続けた人々への感謝の思いで淡白な私も胸が熱くなりました。

トライアスロンは米子の宝物であることがはつきりわかりましたし、ボランティアを通して選手の方々とはこんなに気持ち通じあえるものなんだということを知ったのは大収穫でした。

最後に、鍛えぬかれた選手の肉体系にウツリしつつ、さわやかな疲れを湯船で癒している自分のプロポヨした体を見るにつけ、ため息一つ(あるいは二つ)ついたのは私だけではないでしょう。

今まで20回の大会にかかわったすべての皆様、「本当にお疲れ様でした。」また来年もよろしく御願いいたします。

NEWカマーズ委員会 金居 大介

この度、ボランティア部の一員として、トライアスロンに参加させて頂いた訳ですが、まづこの大会を支えているボランティアの人達の多さに驚きました。休日の大半をボランティアとしての活動に費やし700名以上の選手を裏で必死に支える姿に胸が熱くなりました。

私は米子商業の生徒を担当させて頂いたのですが、事故も無く、行方不明者も出ず、無事に任務を終えることができたのも、南部長はじめ部員の方々、商業の先生に助けて頂いたからであり、本当に感謝しています。

また生徒達の若さを見て自分の甘く切ない青春時代を思い出したりもし、今度は胸がいっぱいになりました。そして鍛え抜かれた体をした選手達を見てみると、自分も来年は!と思ったのですが一夜明けて冷静に考えてみると、走るのが大嫌いな自分が、あの長い距離を走れる訳がないことに気が付き、気持ち良く諦めることができました。このようなボランティアの方や選手達の一生懸命な姿を見ていると、いろいろな事を考えさせられますし、いい刺激にもなり是非来年もボランティアとして頑張りたいと思いました。

NEWカマーズ委員会 高橋 隆一

今回はじめてトライアスロンのスタッフとして動いてみて何もわからないのはあたり前ですが、自分としては楽しかったです。

とにかく、選手の方とのコミュニケーションこれがとにかくうれしかった。このトライアスロンの裏方がどんなに大変であるかという事もよくわかりました。

新入会員である私は、先輩方にいわれるままに、右に左にバタバタして終了しました。皆様大変お疲れさまでした。そしてありがとうございました。

ただ残念だったのは、先輩の中で酒を飲まれて私達にたいして口調がものすごく悪い方がいらっしまったのは大変がっかりしました。

NEWカマーズ委員会 松浦 光善

私は、皆生トライアスロンというイベントについて、過去に出場した友人の伴走をしたり、ASのお手伝いを経験したりして、おおよその内容は理解しているつもりでした。しかし、それは当日だけの参加であり、今回、中央会に入会し、初めて事前の段階からの参加を経験してその大切さを感じ、又、たくさんの方の力持ちに支えられつつ、この大会が運営されているのだと感じました。

私事ですが、前日に他のリクリエーションの幹事を担当しており、トライアスロンの集合時間が午前4時30分という事で、あまり寝ることなく参加という事になりましたが、眠くなるどころか、時間がたつにつれ、感動と充実感で、疲れさえ忘れてしまっていました。また、来年もこの感動をトライアスリートとボランティアの皆様方と是非、一緒に味わいたいと思っております。

最後になりましたが、中央会現役や、OB代表で頑張られた選手の皆様、本当にご苦労様でした。微力ながらお力添えさせて頂きたいと思っておりますので、宜しく御願い致します。